

新見公立短期大学の国際交流・国際貢献

山内 圭¹⁾*・古城 幸子²⁾・岡 宏美²⁾・宇野 文夫²⁾・難波 正義

1) 地域福祉学科 2) 看護学科

(2008年11月12日受理)

本報告は、平成20年度より開始された「質の高い大学教育推進プログラム」に、これまでの本学の国際交流・国際貢献の取組をまとめて応募した申請書の内容を中心としたものである。本学の、オーストラリア研修旅行、アメリカ研修旅行、カンボジア・スタディツアー、新見英語サロン等の実践についての報告である。(キーワード) 国際交流、国際貢献、こころの国際化、外国語コミュニケーション

はじめに

文部科学省では、平成20年度から、大学設置基準等の改正等への積極的な対応を前提に、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された、教育の質の向上につながる教育取組の中から特に優れたものを選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国全体としての高等教育の質保証、国際競争力の強化に資することを目的とした「質の高い大学教育推進プログラム」を実施している。

これまでの本学の国際交流・国際貢献の取組をまとめて応募したところ、最終選定にはいたらなかったが、書類選考は通過し、ヒアリングまで受けることとなった。ここでは、同プログラムへの申請書の内容を中心に報告する。

1. 取組の概要

①取組の背景、社会的ニーズについて

国際化時代の現在、外国の人々と意見を交わし、諸外国の優れた点は日本に取り入れ、諸外国に日本のことを発信することはきわめて有益である。

●本学のある新見市の地域的な背景とニーズ

新見市は岡山県北部の中国山地の山間に位置し、人口35,632人(平成20年3月末現在)のいわゆる「いなか」であるが、国際交流と英語教育を重要視している。新見市の国際交流先は、アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューパルツ・ヴィレッジ(姉妹都市)、カナダ・ブリティッシュコロンビア州シドニー市(申請書作成時姉妹都市締結交渉中、平成20年7月1日姉妹都市縁組調印)、中国河南省信陽市瀾河区(友好都市)であり、人口の割には多い3都

市との交流を進めている。

また新見市は英語特区に指定され、小学校・中学校の英語教育の独自のカリキュラム作成、ALTの充実に力も注いでいる。

本取組担当者(筆頭著者山内)は、新見市国際交流協会の交流部会長(理事)を務め、姉妹都市交流に深く関わっている。また新見市教育委員会より小中一貫英語教育検討委員長及びALTコーディネータの役にも任じられている。

●本学学生の背景とニーズ

本学学生は中国地方を中心に、四国、九州出身が多く、看護・保育・福祉の専門職を目指す。そのため、入学時までに海外体験のある者は少数派である。しかし、本学の行なっている海外研修に興味を持って入学してくる学生もあり、関心は少なくない。

一方、新見市は若者の市外流出が増え、高齢化及び過疎化が進んでいる。また核家族化の増加により学生の高齢者との同居経験が減少している。学生に対し、高齢者理解や異世代交流の機会の提供はきわめて重要である。

②取組の学生教育の目的と成果に関する具体的な目標について(図1参照)

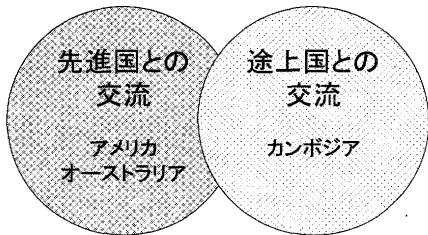
本取組の目的と目標は以下の5点である。

1) 英語コミュニケーション能力の必要性を学ぶ。アメリカやオーストラリアでのホームステイや、新見市民との交流行事への参加、留学生や来日している外国人との交流行事等で、英語が実際のコミュニケーションや外国についての情報収集に役に立つことを実感する。

2) 他国の暮らしを見聞し、その地域の文化や価値観を学ぶ。ホームステイや現地のボランティア体験を通して、外国の生活文化を体験する。または、留学生などとの交

*連絡先: 山内 圭 地域福祉学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

文化と価値観の多様性を学ぶ



- 環境、生活、暮らしの中に見る文化
- 発達段階に応じた教育や支援の必要性
- 医療や福祉の現状と専門職の存在

英語(外国語)コミュニケーション能力

図1 国際交流・国際貢献活動のねらい

流で、日本の生活・文化の相違点などを学ぶ。

3) 先進国の社会システムや教育・福祉・医療の現状を学び、わが国との相違を考える。アメリカやオーストラリアの幼稚園、保育園、学校、病院、高齢者ホーム、ホスピス等を訪問見学し、先進国の現状を知る。

4) 発展途上国の暮らしと国際貢献活動の実際を学び、社会的な課題を考える。カンボジアで国際貢献活動を体験し、その国の抱える医療・福祉・教育などの課題と、各自の専門性を生かした活動の可能性を考える。

5) 異文化体験の中から、多様な価値観や人間観を理解し、人間としての成長を促す。さまざまな形で異文化に触れ、多面的な理解と、多様な価値観を理解し、社会の情勢や変化に柔軟に対応できる人間的な成長が促される。

③学部等の人材養成目的との関係について

本学の目的で述べているように「広く教養を高め、看護、介護および幼児教育に関し専門の知識と技能を深く指導研究する」ためには、諸外国の言語・文化・現状についての理解が不可欠である。

看護学科の教育目標の「社会の変化に柔軟に対応できる多様な価値観を認識」するため、幼児教育学科の教育目標の「保育者として必要な資質を向上させるために不可欠な理論を求め」、地域福祉学科の教育目標で言及される文化の視点を持つために、外国文化に触れることはきわめて有意義なことである。

全学科が人と関わる専門職種の養成課程の本学では、近年の国際化に際し、サービスの受け手が日本人以外であることを含めた教育が必要である。

2. 取組の具体的内容・実施体制等

①取組の目的を達成するための教育課程・教育方法等について



写真1: 第10回オーストラリア研修旅行
第10回を記念するTシャツをいただく



写真2: 地雷障害者自立支援村
家族で暮らす一間だけの家



写真3: 豪;チャイルド・ケア・センター訪問
子どもたちと歌や踊りで楽しむ



写真4: 現地医師の巡回診療に同行
マラリア・結核など感染症で療養中の人が多い

グローバルな視野の専門職者

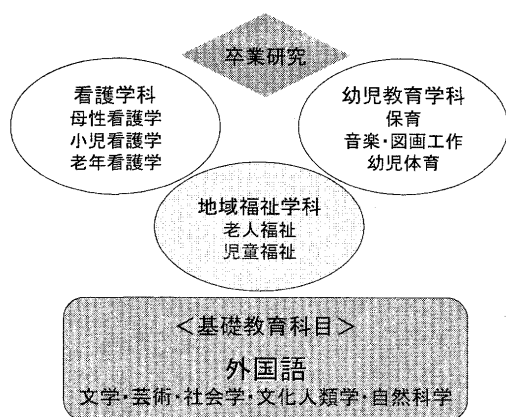


図2 本取組の教育課程における関連

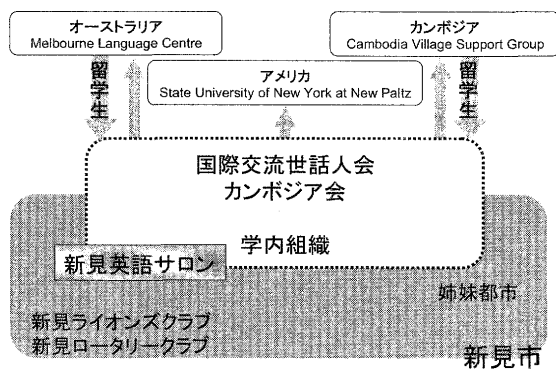


図3 本学の国際交流推進体制

基礎科目の中での外国語を中心として、社会や生活、人々の暮らしを理解するために基盤となる科目が図2のように履修される。また、各専門領域の科目も本取組との関連が深い。研修旅行については、英語科目で、研修旅行体験者が報告をし、研修結果を他の学生と共有する。

また卒業研究として海外の国々を対象に研究テーマを選ぶ学生が増え(資料1)、その成果は卒業研究発表を通じ各学科の全学生・全教員に還元されている。研修旅行で海外を訪問する学生及び教職員については、現地での研修で様々な影響を受け直接的成果が期待できるが、研修旅行に参加しない学生及び教職員さらに一般市民にも参加者が成果を還元できる機会を授業以外にも作る。

また、本取組担当者が主宰の新見英語サロンで、外国人、海外経験のある卒業生・市民等を招き、在学生・教職員及び市民に対し、体験を披露する機会を設ける。カンボジア会では勉強会を通じ、カンボジアについての理解を深める。

さらに、地域の高齢者に対し英会話教室を実施する予定である。これは高齢化が進む新見地域の生きがい作り、生涯学習の機会提供としても機能する。学生をアシスタントにつけ、核家族化が進み高齢者と同居経験の少ない

資料1 国際的な視点の卒業研究テーマ

年度	国名	テーマ
看護学科		
2003年	スウェーデン	スウェーデンと日本の性教育の違いについて
	ネパール	海外医療ボランティアに関する研究 -AMDAのネパールスタディツアー参加を通して-
	ネパール	国際協力における看護の役割 -AMDAのネパールスタディツアー参加を通して-
2004年	カンボジア	開発途上国の保健・医療の現状と国際協力活動の実際 -AMDAカンボジアスタディツアー参加を通して-
	アメリカ	日本人と外国(米国)人の清潔行動の相違
2005年	タイ	タイ・バンコクにおけるエイズに対する街頭アンケートによる認識度調査
	タイ	タイのHIV感染者の現状と地域の支援財団との関わり -タイでのHIV感染者/AIDS患者の聞き取り調査を通して-
2006年	世界	国際協力における看護学生の意識調査
	カンボジア	カンボジアの子供の現状と国際協力で私たちにできること -カンボジアスタディツアーを通して-
	アメリカ	日本と諸外国の療養環境の違いについての一考察 -アメリカ合衆国の小児施設とファーストフード店との関連-
	中国	街頭観察による日本と中国の衛生行動の比較
2007年	世界	国際看護に関する研究の内容分析と今後の課題 -過去10年間におけるわが国の原著論文より-
地域福祉学科		
2005年	バングラディッシュ	国際ボランティアと自立支援 一経験談の聞き取りをもとに-
2007年	南アフリカ アメリカ	日本と外国の老後のあり方 -幸せな老後と現代における捨捨ての事例-
	韓国	在日コリアン高齢者の現状と課題
	ヨーロッパ オーストラリア	アロマセラピーの効果 -自然療法による心身のストレス解消について-
	韓国	在日コリアン高齢者を支援する側の医療福祉専門職の課題
幼児教育学科		
2005年	カナダ	子育て支援における保育士の役割に関する研究 -カナダの親教育プログラムにおける「ファンリテーター」の検討から-
2006年	アメリカ	アメリカでの実践から見るレジジョ・エミリア研究

学生の高齢者理解、学生の英語力向上、異世代交流の機会とする。また地域の英会話サークルの活動支援も行う。

取組の学生教育の目的と成果に関する目標について具体的に数値等で示すことは難しいが、「いなか」で学ぶ本学学生に対し、外国訪問の機会、外国人と直接接触する機会、外国について学ぶ機会を飛躍的に増大させる。その活動を通じ、学生が外国人を含む様々な人たちと交流し、ネットワークを作る機会を提供し、その人的交流で得られたノウハウを卒業後にも活かし、国内及び海外でのネットワーク作りに繋げてゆくことも期待する。

②取組の実現に向けた実施体制(大学としての組織的な取組体制、学外との連携等)について(図3参照)

本学には、国際交流世話会があり、本取組担当者が代表を務めている。また、新見英語サロンも本取組担当者が主宰し、新見公立短期大学カンボジア会は看護学科教員が代表を務めている。

オーストラリア研修旅行はビクトリア州メルボルンにあるメルボルン・ランゲージ・センター(Melbourne Language Centre)と覚書(Memorandum of Understanding, 1997年)及び協定書(Articulation

Agreement, 2006年)を交わし、協力を受け実施している。アメリカ研修旅行は姉妹都市ニューパルツ・ヴィレッジの州立大学ニューパルツ校(State University of New York at New Paltz)と覚書(Memorandum of Understanding)を交わし協力を得ている。カンボジア・スタディーツアーに関しては「カンボジアの村を支援する会」(Cambodia Village Support Group, 以下CVSG)の協力のもと実現している。

申請時まで4回実施したアメリカ研修旅行に対し、新見ライオンズクラブより補助金を受けた。第5回アメリカ研修旅行は新見ロータリークラブとの共同実施をした。

国際交流の推進団体である新見市国際交流協会の理事および交流部会長を本取組担当者が務め、本学学長でもあり本論の著者の一人でもある難波正義が顧問を務めており、同協会との連携はとりやすい。

本学地域福祉学科と高大連携を実施する岡山県共生高等学校は、留学生受入れ数が多く、カンボジア人留学生を本学カンボジア会に招いている。また、同高等学校が座長を務めた岡山県私学教育研修会「国際理解」部会で本取組担当者は指導助言者を務めた。

3. 取組の評価体制

①申請する取組(取組の達成度)に対する評価体制、方法、指標の設定について

各研修旅行については、『新見公立(女子)短期大学紀要』に下記リストのように報告論文を掲載し、広く内容を公開し学内外からの評価を受ける体制ができています。

●山内 圭：メルボルンへの海外研修旅行報告記, 新見女子短期大学紀要 第19巻: 169-179, 1998

●山内 圭, 桑原一良, 塚本千恵子, 矢藤誠慈郎：ニューパルツ学術訪問団報告記, 新見公立短期大学紀要 第23巻: 169-184, 2002

●岡本亜紀, 岡 宏美, 杉本幸枝, 矢藤誠慈郎, 難波正義：学生の国際的ボランティア活動の育成を目指して—カンボジア研修報告—, 新見公立短期大学紀要 第27巻: 187-197, 2006

●岡本亜紀, 岡 宏美, 杉本幸枝：学生ができる国際貢献—2006年度カンボジア研修報告, 新見公立短期大学紀要 第28巻: 183-189, 2007

研修旅行後は参加者にアンケート調査を実施し、結果は次回の改善に役立てる。また参加者による感想文集も発行している。本取組担当者がまとめた「メルボルンへの海外研修旅行報告記」には、「今回の旅行が今後の英語学習の大きな動機づけになる。外国語を使わなくてはならない環境では、飛躍的にできるようになる。これは教室で学ぶ何倍もの効果がある」と述べ、また「この旅行が多くのことを学び有意義なものとなった」と感想をま

資料2 海外研修の実際

実施時期		参加者	(含) 教職員数
● オーストラリア研修旅行			
第1回	1998年8月1日-10日	12名	5名
第2回	1999年8月1日-11日	23名	2名
第3回	2000年7月29日-8月7日	20名	4名
第4回	2001年8月18日-27日	21名	2名
第5回	2002年8月17日-29日	20名	2名
第6回	2004年3月19日-31日	8名	1名
第7回	2004年8月23日-9月4日	25名	1名
第8回	2005年8月18日-30日	24名	1名
第9回	2006年8月25日-9月6日	12名	1名
第10回	2007年8月18日-29日	9名	1名
● アメリカ研修旅行			
第1回	2002年3月19日-4月2日	22名	4名
第2回	2003年8月3日-17日	17名	2名
第3回	2005年3月19日-30日	12名	1名
第4回	2006年3月19日-29日	14名	1名
第5回	2008年9月3日-15日	未定	未定
● カンボジア・スタディーツアー			
第1回	2006年1月5日-9日	6名	5名
第2回	2007年1月5日-9日	17名	5名
第3回	2008年1月5日-9日	10名	3名

とめている。

カンボジア・スタディーツアーでは、レポート提出を課しており、また実施後調査では、研修で最も興味深かったことを「NGO自立支援村見学」、「アンコール遺跡群見学」、「NGO地雷障害者支援センター見学」、「現地の人たちとの交流」などと挙げている。また、国際貢献やNGO活動については、「十分学べた」「学べた」と全員が回答した。今後、国際貢献について勉強していこうと「とても思った」「思った」とやはり全員が答え、今後の学習意欲へとつながることが分かった。

本取組は、在学生の心の国際化をめざすものであり、短期的な評価や、評価指標を示すことは難しい。本取組により海外体験した卒業生が、何年か後に専門職として海外体験をし、英語サロンの講師で登場することも期待されるようになってきた。

②当該評価を取組に反映させる方法について

研修旅行後のアンケート回答を内容改善に活かしている。訪問先、活動内容で肯定的評価を得たものは継続し、否定的評価を得たものは、改善を検討している。

③取組に関連する今日までの教育実績

資料2に示すとおり、本取組担当者によって、1998年

資料3: 海外研修の危機管理体制

- 引率教員と旅行会社による説明会実施
(現地における健康確保上及び生活上の注意点の徹底)
- 緊急の場合の連絡網の整備
(国際電話が出来る携帯電話を確保等)
- 学生の健康状態の把握および情報の整備
- 受け入れ団体との密接な協議連絡
- 海外旅行傷害保険への加入をさせている
- 必要により消毒用機材及び蚊の忌避剤等の携行及び使用

よりオーストラリア研修旅行を企画、年度により違いはあるものの、平均17名余が参加している。実施回数は10回、延べ174名が参加したことになる。2002年よりアメリカ研修旅行を加え、平均16名余、申請時までに実施回数は4回、延べ65名の参加であった。2006年より、岡山県出身のボランティア団体 (CVSG) との交流から、学内にカンボジア会が発足、カンボジアへの研修旅行を企画することになった。現在までに3回実施し、延べ33名が参加している。

海外旅行の危機管理体制については、資料3のような原則を決めている。

④実施体制等の今日までの経緯

図3に示したように、本取組担当者が中心となり、学内の国際交流世話人会がそれを支えてきた。また途上国研修では、カンボジア会が企画・運営を行ってきた。

4. 取組の実施計画等について

①取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

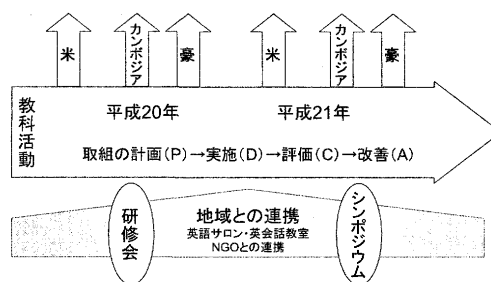


図4 取組の全体スケジュール

2年間の取組期間中の全体スケジュールは、表1に示すように、教科活動を中心にして、地域や関係団体との交流を深めながら、年に3回の海外研修旅行を実施する。その間に図4に示すようにPDCAサイクルを効果的に機能させ、評価改善を行なう。取組み期間中に開催する予定の研修会とシンポジウムについては、数カ国の留学生(隣接した市にある国際大学からの支援を得る)を招いて、各国の生活や文化について理解する場とする。

②取組に参加する教職員と学生数

教科活動は必修科目が中心であり、全ての学生に情報や学びの共有の機会がある。研修旅行に参加する学生は、希望者であるため、現在までは1つの研修旅行に10~20名の少数数であるが、地域連携の英語サロンや学内での勉強会に参加する学生は出入りがあり20~50名が見込まれる。研修会・シンポジウムについては、全学生を対象とする。この機会を通して、研修旅行への関心を高め、旅行参加動機となることが期待できる。

担当教員は、交際交流世話人会のメンバーとカンボジア会のメンバー約10名が中心となり、その代表である山

表1 各年次の実施計画

	教科活動	学内・地域での取組	学外での取組
平成20年度			
先進国への視点	英語Ⅰ・Ⅱ 他 文化人類学 社会学 社会福祉	毎月1回:新見英語サロン 高齢者のための英会話講座 (春・秋)	9月...第5回アメリカ研修旅行 平成21年3月...第11回オーストラリア研修旅行
途上国への視点	音楽・美術 保育 母性・小児・成人・老年看護学 公衆衛生 など	毎月1回:カンボジア会 5月...大学祭で報告 4~8月...報告書の作成	平成21年1月...第4回カンボジア・スタディツアー
平成21年度			
先進国への視点	英語Ⅰ・Ⅱ 他 文化人類学 社会学 社会福祉	毎月1回:新見英語サロン 高齢者のための英会話講座 (春・秋)	9月...第6回アメリカ研修旅行 平成22年3月...第12回オーストラリア研修旅行
途上国への視点	音楽・美術 保育 母性・小児・成人・老年看護学 公衆衛生 など	毎月1回:カンボジア会 5月...大学祭で報告 4~8月...報告書の作成	平成22年1月...第5回カンボジア・スタディツアー

内圭（英語）と岡宏美（母性看護学）がコーディネータを務める。

資料5 新見英語サロン開催状況

開催年	回	内容・テーマ	講師	開催場所	延べ参加者数
2005年	計4回	・英語キャンプ ・茶話会 ・OG講演会	新見市国際交流協会との共催；市内のALT講師	備北青年の家 短大合同講義室 短大学生会館	71名
2006年	第12回	・国際ふれあいデー ・茶話会 ・立食パーティ ・写真を見せ合う会 ・私の1週間 ・ポーカークーをしよう！ ・チョコレートを食べながらTexas hold'emをしよう！ ・年越しうどんを食べよう！	新見市国際交流協会との共催；市内のALT講師	短大学生会館 西方公民館 うどんの館たまたがき	231名
2007年	第7回	・冬休みの出来事 ・カラオケを唄おう ・最終反省会 ・折り紙と一緒に楽しむ「私たちの草の根国際交流」 ・アメリカと日本のお菓子を食べてみよう！ ・DVD上映会	草の根国際交流の報告 ニューバルツの訪問 September Concert in New Paltz 2007 ・新見 2007	短大学生会館 カラオケハウス 太池部 「よりどころ」	98名

おわりに

本取組は残念ながら最終選定にはいたらなかったが、今後とも予算の許す範囲内で、新見公立短期大学の国際交流・国際貢献のため、学生達の心の国際化のため、事業を推進してゆく所存である。

巻末資料

資料4 新聞記事 (2007年11月20日・山陽新聞)

ニューバルツでのコンサートの開催を伝える記事。国際交流協会の主催で、山陽新聞が取材した。記事には、ニューバルツでのコンサート開催の様子が写真で写っており、その下に「ニューバルツでのコンサート開催」のキャプションがある。また、「ニューバルツでのコンサート開催」の副題も見える。

様々な交流ができるように、多様な企画・活動を行なっている。

資料8 カンボジアスタディツアーの日程 -2007年度；学生9名・教員3名-

日時	行程	ねらい
1月5日	関空→ホーチミン→シェムリアップ	
1月6日	AM CVSG自立支援センター こども達と交流	NGO現地活動の実際を知る 日本人現地ボランティアとの交流 国際交流の体験
	PM 巡回診療見学 アプサラダンス	途上国の医療の現状を知る 伝統文化を知る
1月7日	AM CVSG自立村見学 こども達と交流	カンボジア郊外の生活を 知る
	PM ジャックフルーツ植樹 地雷博物館 トンレサップ湖 オールドマーケット	カンボジア国の現状を知る(内戦の跡、復興の現状、自然環境、国民の生活など)
1月8日	AM キリングフィールド クメール織物研究所	カンボジアの歴史・文化を知る カンボジアでの日本人の活動の実際を知る
	PM アンコールワット等 遺跡群観光 シェムリアップ→ホーチミン	
1月9日	ホーチミン→関空	

資料7 カンボジア会の活動 -2007年度-

開催	内容	ねらい
4月	ツアーの報告会・メンバー募集	途上国の現状を知る
5月	学園祭への参加	会の宣伝
6月	勉強会「カンボジアに関するVTR上映会」	カンボジアを知る
7月	勉強会「学生が考える国際貢献-レポート発表会-」	国際貢献の現状を知る
8・9月	夏季休暇	
10月	教員による現地研修説明会	現地研修の目的を知る
11月	勉強会「NGO代表による国際交流・国際貢献の在り方」	現地ボランティア活動の実際を学ぶ
	現地活動の企画・立案	国際交流について考える
12月	現地活動準備(学生各自)	
1月	カンボジア スタディ・ツアー	途上国の実際を知り、国際交流を体験する。
		国際貢献の実際を知る
2月	現地研修の評価・反省	
3月	研修レポート冊子作成 教育・研究発表会(学内)への参加	活動の振り返りとまとめ

毎月1回開催しているカンボジアに関する勉強会や留学生やカンボジアで活躍しているNGOメンバーとの交流を計画活動している。

スタディツアー日程では、NGOの活動拠点であるシェムリアップを拠点に、地雷障害者支援センターやAIDS自立村などを見学、子供たちとの交流やジャックフルーツの苗の植樹などを行なった。

資料6 オーストラリア研修旅行日程

新見公立短期大学～オーストラリア研修旅行12日間

■研修期間：2007年8月18日(土)～8月29日(水)■



日	月日	都市名	現地時間	交通機関	行程	食事(宿泊)
1	8月18日(土)	関西空港 発 香港着 香港発	18:10 21:00 23:35	CX507 CX105	関西空港より香港へ【所要3時間50分】 香港よりアデレードを経由してメルボルンへ 【所要11時間15分】	夕：機内食 《機中泊》
2	8月19日(日)	メルボルン着	12:50	専用バス	着後、語学学校【MELBOURNE LANGUAGE CENTRE】へ MLCにてオリエンテーション ホストファミリーと対面後、各家庭へ	朝：機内食 昼：機内食 夕：ホスト 《ホームステイ》
3	8月20日(月)	メルボルン			午前：英語研修 (MLCにて) 午後：オーストラリアのヘルスケアシステム (講義) ◎ 幼児教育学科 午前：英語研修 (MLCにて) 午後：オーストラリアのチャイルドケアシステム (講義)	朝：ホスト 昼：バックラ ンチ 夕：ホスト 《ホームステイ》
4	8月21日(火)	メルボルン			◎ 看護・地域福祉学科 午前：英語研修 午後：セントビンセント病院訪問 ◎ 幼児教育学科 午前：幼稚園訪問 (イーストメルボルン・チャイルドセンター) 午後：英語研修	
5	8月22日(水)	メルボルン			◎ 看護・地域福祉学科 終日：高齢者ケア施設にてボランティア体験 ◎ 幼児教育学科 午前：幼稚園訪問 (イーストメルボルン・チャイルドセンター) 午後：英語研修	
6	8月23日(木)	メルボルン			◎ 看護・地域福祉学科 午前：英語研修 午後：カリタスクリスティホスピス訪問 ◎ 幼児教育学科 午前：身体障害児・遅進児専門小学校訪問 (Glenroy RCIS) 午後：英語研修	
7	8月24日(金)	メルボルン			◎ 看護・地域福祉・幼児教育学科 午前：英語研修 午後：アロマセラピーマッサージ講義実践	
8	8月25日(土)	メルボルン			終日：ホストファミリーと過ごします。 【オプションツアー】●ワイルドライフパークとペンギンパレード見学	
9	8月26日(日)	メルボルン			終日：ホストファミリーと過ごします。	朝昼夕：ホスト 《ホームステイ》
10	8月27日(月)	メルボルン			◎ 看護・地域福祉・幼児教育学科 午前：英語研修 午後：HIV/AIDS患者からのお話し	朝：ホスト 昼：バックラ ンチ 夕：ホスト 《ホームステイ》
11	8月28日(火)	メルボルン発 関西空港着	14:40 22:05	専用バス CX104	午前：修了証書授与とさよならランチ 終了後、バスにて空港へ 午後の便で空路、香港へ【所要9時間25分】 到着後、ホテルへ	朝：ホスト 夕：機内食 《香港泊》
12	8月29日(水)	香港発 関西空港着	10:05 14:45	CX506	朝：ホテルより空港へ 午前の便で関西空港へ【所要3時間40分】 到着後、入国手続きを終えます。 手続き終了後、解散。お疲れ様でした。	朝：ホテル 昼：機内食

2007年8月、英会話レッスン・ホームステイによる異文化体験、各学科の学習内容に関連する施設の見学実習、観光などが盛り込まれたスケジュールになっている。

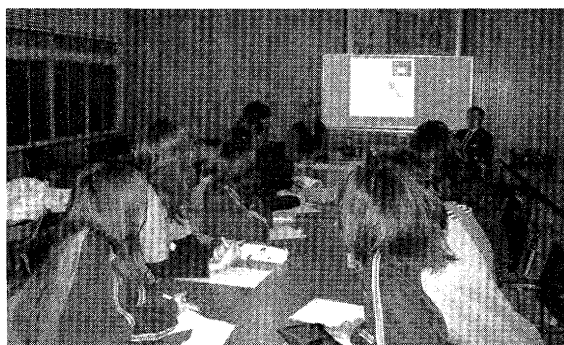


写真5:カンボジア会勉強会

岡山県内に拠点を置くNGO 団体代表者を囲んで、実際に現地研修に参加する学生を中心に、国際貢献の実際やその在り方について学んだ。



写真6: オーストラリア チャイルド・ケア・センター
子どもたちと折り紙を楽しむ



写真8: オーストラリア 高齢者施設訪問
利用者さんたちと書道を楽しむ

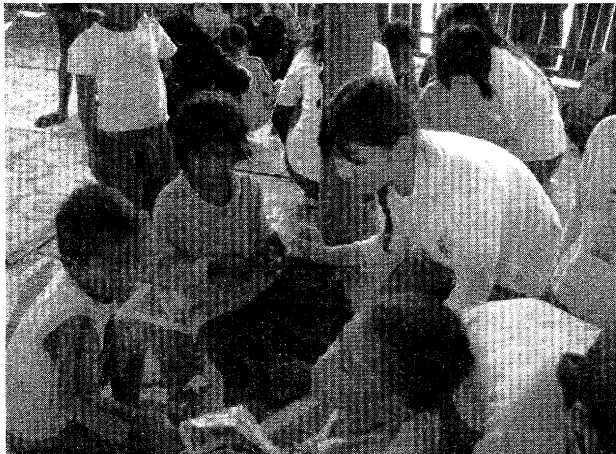


写真7: カンボジア 自立支援村の子供たちと遊ぶ
子供たちの衛生状態を服装や体の汚れで推察
無邪気な明るい笑顔に救われる学生たち



写真9: 現地の人々(右: 伝統的産婆、左: 産婆の助手)
NGO自立支援村にいる住民。高齢と思われるが、
自分の誕生日すら定かではない。

写真6・7は、先進国・途上国の子供たちとの交流で、その生活の様子を目の当たりにし、子供たちの清潔や食事など基本的な生活習慣や保育教育のあり方など、グローバルな格差をまざまざと感じ、考えさせられる。

写真8・9は、高齢者施設で安楽に暮らす先進国の高齢者と、年齢も分からず内戦で家族を失い、生きることを目標に日々を過ごしている人々との、異なる価値観や生き方の多様性を感じ考えることができる。

International Exchanges and Contributions of Niimi College

Kiyoshi YAMAUCHI¹⁾, Sachiko KOJO²⁾, Hiromi OKA²⁾, Fumio UNO²⁾, Masayoshi NAMBA

1) The Department of Community Welfare, 2) The Department of Nursing

Summary

This report is based on the application form for the Distinctive University Education Support Program (Good Practice [GP]) of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan. We have overviewed the Study Tour to Australia, the Study Tour to the United States of America, the Study Tour to Cambodia, Niimi English Salon and so forth.

Keywords: International Exchanges, International Contributions, Internal Internationalization, Foreign Language Communication